

12. 新人教育用マニュアル作成についての考察

京都第一赤十字病院 ○中山 美紀、石元 佑弥、吉永 昭夫

八木 絢子、福田 勤也、平川 益三

【目的】

当院では以前から、複数の技師が新人教育に携わっていた。その結果、指導者個人によって教育内容に違いが生じていた。そこで指導者が変わっても教育内容が統一されるように、教育用マニュアルを作成し検討する。

【方法】

各モダリティで意見交換を行い、必要最低限の内容や応用編、間違えやすいポイントなどを列挙し、それを元にマニュアルを作成した。マニュアルを1年間実践し、指導者、新人の意見をまとめ、検討する。

【結果】

新人教育マニュアルを用いたことで、新人は達成すべき目標が明確になり、より意欲的に業務に取り組むことができた。また指導者は教育内容が統一され、必要最低限の項目を短期間且つ効率的に指導することができた。当院は学生の臨床実習病院にもなっており、今回作成したマニュアルを元に学生指導用のマニュアルも作成できた。

【考察】

今回作成したマニュアルには、達成度を示す項目がなかったため追加で作成を試みた。新人は経験した検査の回数などを示すことで、指導者は不足している点を把握し、その検査を重点的に指導することができるようにした。また申し送りコメントなどを設けることで指導者が変わっても、より細かな教育状況が把握でき、継続して新人の教育が行えると考えられる。